

近世城館跡の陶磁ノート(2)

井上喜久男

室町時代後期(戦国期)から安土桃山時代の近世城館跡から出土する陶磁資料は、瀬戸美濃・常滑・信楽・越前・楽・丹波・備前・唐津の諸窯製品並びに輸入陶磁で占められている。特に瀬戸美濃窯・楽窯・唐津窯の製品は施釉陶器であり、専ら碗・皿類を中心とする飲食器を賄っていた。一方、それ以外の諸窯製品は焼締めだけの無釉陶器であって、貯蔵用の壺・甕及び調理用の搦鉢・捏鉢・片口鉢を供給している。両者はそれぞれの産地の特性を生かして器種的分業の生産を行っているのである。施釉陶器の中でも瀬戸美濃窯は鎌倉・室町時代から伝統的な施釉陶器生産地として展開し、楽窯、唐津窯が16世紀後期から出現することはあったが、15世紀末期から16世紀を通じて中心的な施釉陶器供給地の地位を保持し続けた。しかし、全国各地の同期の消費遺跡の出土資料における諸窯製品の構成比率は地域間に違いが認められ、施釉陶磁にあっては西日本地域は中国陶磁の占める割合が圧倒的に高くなり、東日本地域では瀬戸美濃窯製品の割合が増加する傾向にある。また無釉陶器にあっては在地産の製品が多く使われ、それぞれの分布圏(商圈)を持っていたものと考えられる。15世紀末期から16世紀における瀬戸美濃窯は半地上式の大窯による生産期であり、中世窖窯期から転換して碗・皿を主体とする飲食器生産である。この大窯期における諸器種の編年的展開過程は古窯跡出土資料に基づいて大窯Ⅰ～Ⅴ期の五段階とし、近年の発掘調査による推定実年代の諸例から大窯期編年に実年代を推定した。消費遺跡の出土資料は古窯跡の出土資料では認められていない器種及び器形のものが存在し、今までに発見されている古窯跡以外に未発見の古窯跡があり、未確認の資料に対応する資料が確認されるものと思われる。このことは数年来の瀬戸市内の大窯古窯跡が合次いで発見され、発掘調査によって多くの消費遺跡での資料と同器種のもの認められてきていることでも判る。

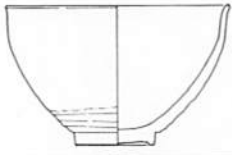
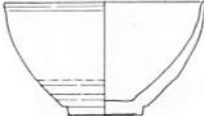
今回のノートは近世城館跡の出土資料を中心に古窯跡の出土資料を加え、現在確認し得る瀬戸美濃窯の器種別分類表を作成したものである。分類表は紙面の都合によりその一部分であり、次回以降にその続編と補訂を行い、編年的考察を加えようとするものである。


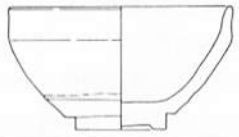
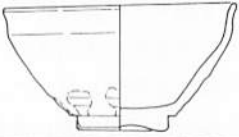


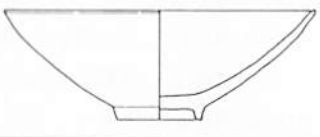
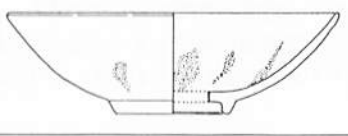
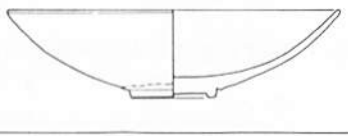
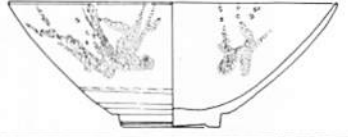

注1. 『やきもの事典』 平凡社 1985 掲載の美濃編年図表参照。


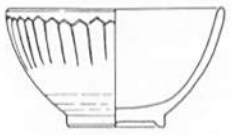


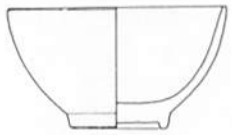
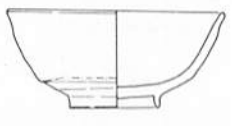
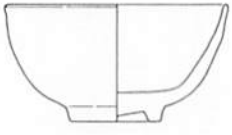

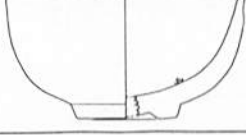


注2. 拙稿「大坂城三の丸跡における初期近世窯の様相」『大坂城三の丸跡』Ⅱ 1983、同「近世城館跡の陶磁ノート(1)」『愛知県陶磁資料館研究紀要』4 1985、同「16世紀の瀬戸・美濃窯」『中近世土器の基礎研究』1985。

注3. 藤澤良祐「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅴ 1986。

15世紀末期～16世紀の瀬戸美濃窯製品分類表 (縮尺 $\frac{1}{4}$) 表1

No	器種	類別	器形	特徴
1	天目	I		大形の天目茶碗で全体的に薄作りのもの。底部は鉄化粧が施され、輪高台である。
		II		底部が輪高台であり、鉄化粧が施されるものと露胎のものがある。

1	天 目	I		底部が輪高台で、露胎である。 銅緑釉天目茶碗。
				底部が輪高台で、露胎である。 長石釉が施された志野天目、あるいは白天目。
		II		底部が内反り状に削り込まれるが、中心が尖る。鉄釉・銅緑釉のものがある。
		IV		底部が内反り高台で、鉄化粧が施されるものと露胎のものがある。
2	平 碗	I	図を省略するが外側面に口縁端で約1cm幅の丸彫り蓮弁文が施されたもので、灰釉総掛けのもの。	
		II		外側面に印刻蓮弁文が施されたもので、灰釉が施される。
		III		無文の付高台平碗で、灰釉が総掛けされているもの。
				付高台平碗で、鉄釉が総掛けされ、内外面に灰散らし斑文が施されているもの。
		IV		無文の削出し高台平碗で、底部は鉄化粧が施されるものと露胎のものがある。
		V		鉄化粧が施された削出し輪高台で、内外面の鉄釉地に長石釉を散らした斑文が施されているもの。
VI		鉄化粧された削出し輪高台で、底部から口縁へ真直に開く。鉄化粧の上に灰釉を施した黄瀬戸釉のもの。		

2	平 碗	Ⅵ		無文・無釉の平碗。胎土は鉄分の強い細土が使われ、表面は茶褐色の火色を、断面は灰色を呈する。
3	碗 A	I		外側面に印刻蓮弁文が施された灰釉総掛けのもの。
		II		外側面に線描き蓮弁文が施された灰釉碗。
		III		外側面に櫛描き文が施された灰釉総掛けのもの。
		IV		無文の灰釉総掛けのもの。付高台。
		V		付高台で、底部が露胎の灰釉碗。
		VI		削り出し高台で、高台部分のみ露胎の灰釉碗。
		VII		削り出し高台で、高台脇が削り出されているもの。灰釉・鉄釉のものがある。
		VIII		削り出し高台で、高台部分のみ露胎の長石釉碗である。全体厚作りで、口縁部のみ薄作りである。
4	小 杯	I		外側面に櫛描き文が施されたもの。灰釉。
		II		無文の灰釉総掛けのもの。付高台。



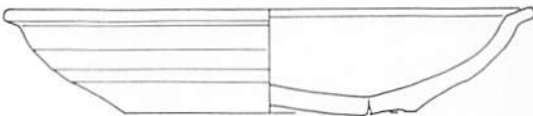
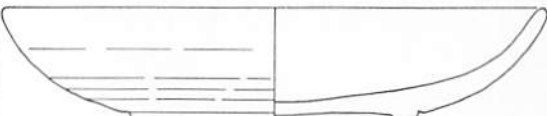
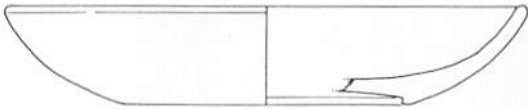
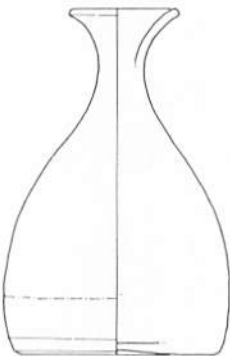



4	小 杯	III		口縁がラッパ状に大きく外反する灰釉総掛けのもの。		
		IV		口縁端部が外反する灰釉総掛けのもの。		
		V		削り出し高台で口縁が外反するもの。底部は露胎で、鉄釉が施され、その上に灰散らしされている。		
		VI		削り込み高台で、口縁が外反するもの。灰釉。		
		VII		口縁端の外側面を細かくへら押しの輪花手法が施されたもの。灰釉総掛け。		
		VIII		削り出し高台で、底部が露胎のもの。灰釉。		
		IX		天目形のもの。鉄釉と灰釉のものがある。		
		X		削り込み高台のもの。灰釉総掛け。		
		XI		平底のもので、口縁から内面に灰釉が施される。		
		XII		削り込み高台の真直に開くもの。鉄釉総掛けの上に灰散しがある。		
		5	丸 皿 A	I		口縁部だけに灰釉または鉄釉を縁掛けされたもの。底部が丸底に近い。糸切底。
				II		窯道具の挟み皿の器形に灰釉を縁掛けされたもの。糸切底。
III				全体を鉄化粧され、さらに鉄釉を縁掛けされたもの。糸切底。		
IV				削り込み高台。全体を鉄化粧され、さらに鉄釉を縁掛けされたもの。		
V				削り出し高台。口縁部に灰釉が施されたもの。		

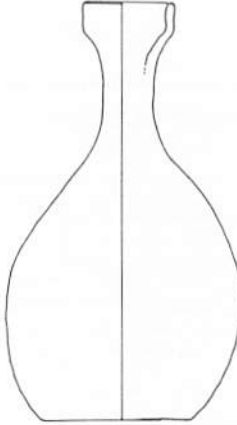

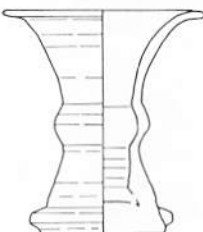

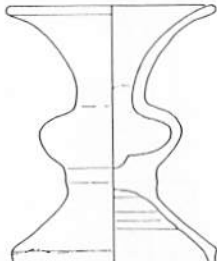
6	稜皿 A	I		付高台で底部のみ露胎のもの。灰釉。
		II		削り出し高台で底部のみ露胎のもの、内面底部に3個のトチ跡があるものかないものがある。
		III		削り出し高台で底部のみ露胎のものと、鉄化粧が施されたものがある。深目のもの。灰釉。
		IV		付高台で総掛け釉されたもの。
		V		付高台で口縁端部がわずかに内湾するもの。総掛け釉。
		VI		内面底部が丸く深くなり、口縁部で外反して端部でわずかに内湾するもの。鉄釉総掛けに灰散らし斑文。
7	稜皿 B	I		底部から真直に大きく開いたもので、内側面には櫛目波状文がある。灰釉総掛け。
		II		底部から真直に開いた深目のもの。灰釉総掛け。
8	ひだ皿 A	I		口縁部に台形状のひだが施されたもの。灰釉総掛け。
		II		口縁部に波状のひだが施されたもの。灰釉総掛け。
		III		口縁部に粗いひだが施されたもの。灰釉総掛け。
9	稜皿 C	I		削り込み高台。腰部に稜があるもの。鉄釉総掛け。
		II		削り込み高台。腰部に稜がないもの。鉄釉総掛け。
		III		削り込み高台。口縁端部に指圧のひだが施されたもの。鉄釉総掛け。
10	丸皿 B	I		大形の付高台丸皿で、口縁が外反するもの。総掛け釉。
		II		大形の付高台丸皿で、口縁が直のもの。総掛け釉。

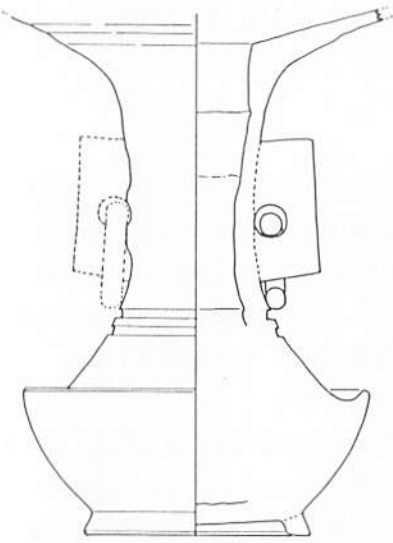

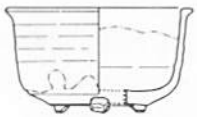


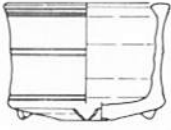
10	丸皿 B	II		大形の削り込み高台丸皿で、口縁が直のもの。総掛け釉。
11	丸皿 C	I		小形の付高台丸皿で、口縁が外反するもの。灰釉総掛け。
		I		付高台丸皿で、口縁が外反するもの。全体厚作りで、長石釉が総掛けされる志野皿。
		II		削り込み高台で、口縁が外反するもの。鉄釉総掛け。
		IV		付高台で、口縁が外反し、内側面と口縁上面に二重圏線が施されたもの。灰釉総掛け、無釉のものがある。
		V		図を省略するが、付高台で、外側面にへう描き縦線が細かく施されたもの。灰釉総掛け。
		VI		付高台で、口縁が直のもの。灰釉総掛け。
		VI		付高台で、口縁が直のもの。銅緑釉総掛け。
		VII		付高台で、器高が低く、腰部の湾曲が強いもの。鉄釉総掛け。
		VIII		付高台で、口縁が直のもの。長石釉総掛けされる志野皿。
		IX		削り込み高台。鉄釉総掛け。
X		削り込み高台で、浅いもの。鉄釉総掛け。		
12	菊皿 A	I		内側面に丸彫りと二重圏線が施されたもの。灰釉総掛け。
		II		内側面に丸彫りと圏線が施されたもの。灰釉総掛け。
		III		内側面に丸彫りが施されたもの。灰釉総掛け。
		IV		内面底部から内側面に丸彫りが施されたもの。灰釉総掛け。
		V		内面底部から内側面に丸彫りと、口縁端の外側面に細かくへう押しの輪花手法が施されたもの。灰釉総掛け。

13	ひだ皿	I		腰部が丸く、外反する口縁に小さいへら押しによるひだが施されたもの。鉄釉総掛けに灰散らし。
		II		口縁端部に指圧のひだが施されたもの。鉄釉総掛け。
		III		外反する口縁に細かい波形のひだが施されたもの。灰釉総掛け。
		IV		口縁部に荒くへら押しひだが施されたもの。鉄釉総掛け。
		V		削り込み高台で、口縁に一方に片寄ったひだが施されたもの。鉄釉総掛け。
		VI		口縁部に粗くへら押しひだが施されたもの。長石釉総掛けの志野皿。
14	輪花皿	I		口縁の数箇所指圧の輪花手法が施されたもの。灰釉総掛け。
		II		口縁の五箇所へら押し輪花手法が施され、輪花の上端がカットされているもの。鉄釉総掛けに灰散らし。
		III		外反する口縁の五箇所に輪花手法が施されたもの。鉄釉総掛け。
15	菊花皿	I		口縁端を花卉状に切り込み、内側面が丸彫りされたもの。長石釉総掛けの志野皿。
		II		口縁端を花卉状に切り込み、内側面に丸彫り、外側面に縦の沈線が施されたもの。長石釉総掛けの志野皿。
		III		内側面に丸彫りと、口縁部に波状のひだが施されたもの。長石釉総掛けの志野皿。
16	内ハゲ皿	I		内面底部の円形台状部の釉がはがされたもの。
		II		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、内側面にへら描き文が施されたもの。灰釉。
		III		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、内側面に丸彫りが施されたもの。灰釉。
		IV		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、内側面に丸彫り、口縁部にひだが施されたもの。灰釉。
		V		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、口縁にひだが施されたもの。鉄釉。

16	内ハゲ皿	Ⅵ		大形の内ハゲ皿。灰釉。
		Ⅶ		大形の内ハゲ皿。内側面に丸彫りが施される。灰釉。
		Ⅷ		内面底部の蛇ノ目状帯部の釉がはがされているもの。灰釉。
17	折縁皿	I		総掛けの折縁皿。
		Ⅱ		内側面に櫛目波状文が施されているもの。灰釉総掛け。
		Ⅲ		浅いタイプのもの。鉄釉総掛け。
		Ⅳ		内面底部の円形台状部の釉がはがされたもの。
		Ⅴ		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、内側面に丸彫りが施されたもの。
		Ⅵ		内面底部の円形台状部の釉がはがされ、内・外側面に丸彫りが施されたもの。
		Ⅶ		内面底部の釉が円形にはがされ、口縁端が切り込まれて稜形となるもの。鉄釉。
18	豆皿	I		削り出し高台。底部は鉄化粧されている。鉄釉。
		Ⅱ		削り込み高台。灰釉総掛け。
		Ⅲ		削り出し高台で露胎。口縁に細かいへら押しのひだが施されているもの。灰釉。
		Ⅳ		口縁端に粘土塊を貼付けて魚形としたもの。灰釉総掛け。
19	重圏皿	I		ロクロ水挽き圏線が強く残るもの。無釉。
		Ⅱ		内側面に隆帯重圏が施されたもの。無釉。
		Ⅲ		黄白色粘土を使った厚作りで、隆帯重圏が施されたもの。無釉。

20	溝 縁 皿	I		口縁端が溝になるもの。鉄釉。
21	おろし皿	I		口縁部に縁掛け釉した浅いおろし皿。
22	大 皿 A	I		削り込み高台で、口縁が外反するもの。総掛け釉。
		II		削り出し高台で、口縁が直のもの。鉄釉総掛け及び無釉。
		III		削り込み高台で、口縁が直のもの。鉄釉総掛け及び無釉。
23	瓶	I		底部へら削り整形した下膨れ形のもの。底部は鉄化粧が施される。鉄釉。
		II		小形の下膨れ形の瓶。鉄釉。
		III		球状に近くなった胴部に細長い口頸部が付いた形のもの。鉄釉総掛けに灰散らし。
		IV		口縁部が受け口状となる細長い頸部のもの。総掛け釉。

23	瓶	V		<p>口縁部が円筒形に立ち上がる形のもの。鉄釉総掛け。</p>
24	花瓶	I		<p>口縁部が受け口状となるもの。底部は糸切底。鉄釉。</p>
		II		<p>尊式のもの。鉄釉。</p>
		III		<p>尊式の脚部が省略された形のもの。底部は糸切底。鉄釉。</p>
		IV		<p>尊式のもの。裾広がり脚部が付くもの。鉄釉。</p>

24	花瓶	V		<p>遊環双耳を持つ花生。 鉄釉。口縁は広い盤状。 付高台。</p>
25	香炉	I		<p>袴腰形のもの。底部に三足が 付く。鉄釉。</p>
		II		<p>筒形のもの。底部に三足が付 く。鉄釉。</p>
		III		<p>大形の筒形のもので底部には 三足が付く。内面は鉄化粧され る。鉄釉。</p>
		IV		<p>広口壺形のもので底部は削り 出し輪高台のもの。鉄釉。</p>
		V		<p>筒形の胴部の上・中・下段に 2～3本の沈線が施され、底部 には三足が付く。灰釉。</p>